



第19号 2017年7月25日発行
五ヶ瀬川の豊堤を守る会

熊本地震から一年が経過しました。また、先日は九州北部で大変な豪雨が発生しました。被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。

昨年は四月に「風雨を受けながら豊堤に豊を差し込む人物像」製作計画を立ち上げ、六月に会員有志で豊堤が残る長良川、揖保川を視察研修旅行、十一月には人物像が完成し式典と祝賀会を行うことができました。その間に秋の「豊堤ピクニック」があり、豊堤の草取りを行うなど、大変忙しく充実した一年でした。

豊堤に豊を差し込む人物像については、四年前から構想はありながらなかなか実現に至りません

石材林田広行社長が原石からの石像製作を引き受けてくださること、延岡学園高校の美術科伊東珠貴教諭が石像のデザイン制作をしてくださることが決まり勇気と希望が湧きました。

国土交通省へ出向き了解を求め、何回か「豊堤石像製作委員会」を開催しました。製作費については、官公庁、企業、団体、個人へ寄付のお

道事務所副所長から祝辞をいただき、そのあと石像の除幕式が行われました。最後に参加者全員で石像を囲んで写真撮影を行いました。

豊堤の役割が一目で分かる石像を製作

に石像が設置されました。二十八日（月曜日）午後一時三十分から土木課駐車場において完成式典を行うことができました。

式典では、最初に今山八幡宮木村速穂権称宜による神事が厳かに行われました。次に私が「完成したのは関係してくださった皆様の全面的な協力のおかげです」と感謝の言葉を述べさせていただきました。続いて来賓の市長、議長、国土交通省延岡河川国

私が一番嬉しかったのは、延岡工業高校土木科三年生が豊堤の研究で九州「川」のワークショップグランプリ、さらに工業技術発表会で最優秀賞に輝いたことです。

豊堤の石像製作にかかわった高校生達が「豊堤については延岡で自分達が一番詳しい」と公言したように豊堤についてすごく勉強し、延岡を誇りに思ってくれたことは最高に幸せでした。

会長 木原 万里子

完成した石像の前で、林田社長と筆者





豊堤の石像が完成しました

「豊堤の役割が一目で分かり、半永久的に後世に伝えられるものを」と、当会が企画した石像が、県立延岡工業高校（河野明浩校長）と林田石材（林田広行社長）の全面協力で完成し、延岡市北町の豊堤モニュメントのある堤防への上り口に設置されました。昨年十一月二十八日に除幕式を行いました。

石像は、男性二人が豊堤にまたがって豊を入れる様子を表したもので、縦一・五メートル、横三メートル、奥行き九十センチ、総重量４トン。人物と豊堤の部分は白御影石、豊の部分は緑色の御影石



笑顔があふれた祝賀会

でできています。製作・設置費用は百五十七万円。

「豊堤は観光資源になり、地域活性化にも役立つ」との視点から、資金募集には、

延岡商工会議所、延岡観光協会、延岡市区長連絡協議会をはじめ多くの団体、企業、個人の皆様にご協力いただきました。

伊東珠貴・延岡学園高校

した。

美術教諭が作ったミニチュアを基に、林田石材が二カ月をかけて製作。また、林田社長の後輩に当たる延岡工業高校の土木科三年生が、ふるさと学習と職業体験の一環で、粗彫りや豊の目の模様付けの作業を手掛けてくれました。

延岡工業高校の河野校長と西川教諭は、土木科三年生の発表が二つの大会で好成績だったことを報告し、「非常にいいテーマを与えてもらった」と当会に感謝までしてくださいました。

除幕式には約六十人が出席し、首藤正治市長、志賀三智・国交省延岡河川国道事務所副所長、木原会長、林田石材の林田社長は、石像製作に関わった同社の新名忠幸工場長と社員の藤本仁幹さんを紹介し、製作の苦労を話しました。



おはらいを受けた後に除幕



延工の河野校長（左）と西川教諭



林田石材の（右から）林田社長、新名工場長、藤本さん。林田社長は「この２人のおかげで完成できた」。延岡工業高校土木科出身の藤本さんは「後輩と一緒に作業するのは楽しかったが、（すごく大変だったから）二度としたい」と話して会場を笑わせました



①製作意図や設置場所について話し合い（H28/6/22）



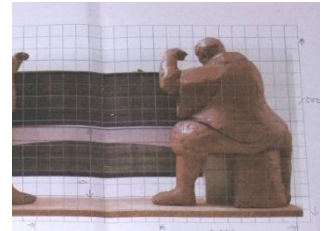
②伊東教諭が粘土で立体的にデザイン



③13トンの原石（白御影石）を真っ二つ



④強度に問題がないように林田社長と相談して最終デザインを決定



⑤原型を前後左右から撮影し、その写真と1センチの升目を重ねた。これが設計図



⑥石材には10センチの升目を書き、設計図を元に10倍に拡大して下書きをし、粗彫りを開始（10/5）



⑦工業生が粗彫りと畳の目の模様付けを体験（10/19）



⑧粉塵にまみれながらの作業が夜を徹して行われた



⑨7つの部品を現地で組み立てた



⑩重さ六百キロの「畳」を上からはめ入れ、「腕」を接着して完成させた。ぶつければ一瞬で壊れてしまうため、慎重の上にも慎重に作業。「畳」を入れた瞬間、林田社長は「やったー、これで眠れる」（十一月二十五日）

創作団技やシンポジウム 岡富中1年生が畳堤を学習



延岡市教委キャリア教育アドバイザーの富山隆志さん（写真左）は、延岡工業高校と当会をつないでだけでなく、畳堤を中学生のふるさと学習に生かす方法や、畳堤を通じて中高生と私たちがつながる方法も示してくださいました。

岡富中学校は、

昨年夏の体育大会で一年生が「まちを守れ！畳堤」と題した創作団技

を実施。協

力して畳と

土のうを

運ぶ速さ



を競うもので、最後は二十枚の畳が畳堤のように横一列に並びました。（写真右上と中）

十一月十六日には、同中の主催で「畳堤シンポジウム」を開催。延工の畳堤班が研究発表をした後、同中一年生二人、延工の黒木勇太君、当会の木原会長がパネリストとして登壇し、富山さんのコーディネートで意見交換しました。（写真右下）

中学生は、高校生の立派な発表に刺激を受けていました。木原会長は当会の活動を紹介しました。黒木君が「畳堤は、土木技術的に見ても魅力があるし、かつては水防に、今は防災意識の向上や観光振興など役割を変えて息づいていることに魅力を感じる」と話していたのが印象的でした。



当時の延岡工業高校土木科3年生
左から米澤、黒木、佐藤、田島、甲斐、岩切君
下にあるのは、生徒たちが作った畳堤の模型

畳堤の研究発表でグランプリ

延岡工業高校
土木科3年生

畳堤の石像製作に関わる中
で畳堤の構造や役割を研究し
た延岡工業高校土木科3年生
の発表が、「第十六回九州『川』
のワークショップ」（平成二十
八年十一月十二、十三日、北九
州市）でグランプリ、県内の工
業系高校の「工業技術発表会」
（同十一月二十四日、宮崎市）
で最優秀賞に輝きました。メン
バーは黒木勇太君、岩切真平君、
たそうです。受賞後には、岡富



中学校主催の「畳堤シンポジウ

ム」（三ページに詳細）と延岡土木
事務所・延岡地区建設業協会青
年部の合同研修会（同十二月九
日）Ⅱ写真上Ⅱで「凱旋発表」
をしました。土木のプロの建設
業の皆さんも感心する内容で
した。

（編集後記）工業生の快
挙は当会自体の活動ではあり
ませんが、当会の活動の趣旨が
次世代に届いたと手応えの感
じられた、素晴らしいニュース
でした。彼らの将来が楽しみです。

工業生の発表から

延岡土木事務所と建設業協会青
年部の研修会で、工業生が発表した
内容です。ぜひ読んでみてください。
実際は、岩切君の隣に佐藤昇太君が
座り、相槌を打ちながら進めました。
また、残念ながらスペースの都合上、
一部を省略しました。

――――

（岩切真平君）延岡に畳堤つちゅう
土木構造物があるって聞いたけど。
（黒木勇太君）延岡は古くから水郷
の町って呼ばれちよるじやろ。大瀬
川や五ヶ瀬川からたくさんさんの恵み
を受けてきたわけ。水がきれいじゃ
ろ。アユやらがおつて、おいしい料
理もあつて、延岡は川と共に発展し
てきた町ってのも過言じゃないわ
け。でもその反面、川の氾濫によ
る水害とずっと戦ってきた町でも
あつて、そこで造られたのが畳堤な
わけね。

（真平）でんその畳堤でどうやって
洪水を防ぐとけ？
（勇太）畳堤っていうのはね、コン
クリートでできた特殊な枠に畳を

はめこむと。そして堤防のかさ増し
を行うことで、洪水から町を守ろう
つちゅう構造物やとよね。
（真平）畳はどこから持ってくる
と？

（勇太）地域の住民が各家庭から持
ち寄ったと。畳堤つちゅうのは自分
たちの町を自分たちで守ろうつち
ゅう、当時の住民の強い防災意識の
表れでもあつたわけね。

（真平）当時の人たちは自分たちの
町とか川としっかり向き合つちよ
つたつちゅうことやね。で、畳堤つ
ていつごろ造られたとけ？

（勇太）畳堤は全国に三カ所あつて、
延岡の五ヶ瀬川の畳堤が一番歴史
が古いと。戦争で畳堤に関する資料
が燃えてしまったかい詳しく分か
らんかったつちやけど、昭和九年の
新聞に畳堤が載つちよるのが発見
されて、だいたい大正末期から昭和
初期にかけて造られたつちゅうこ
とが分かってきたと。

（真平）へえ、そんな昔に造られた
つちやね。どんぐらいの長さじゃつ
たと？

（勇太）当時は二千ぴあつた。二
*。それで全部の畳堤に畳をはめて
いったら、畳が千枚いっと。

（真平）千枚。そんなにたくさん。

（勇太）こんだけいっぱい使うかい、
住民の意思疎通やら協力やら設置
訓練が必要不可欠なわけね。訓練も
何もせんかったら、誰がどこにはめ
ればいいのかも分からんじやろ。

（真平）当時の人の防災意識の高さ
が分かるね。俺たちも見習わんとい
かんね。

（勇太）そういうこつちやね。今の
防災は県やら市やらに任せつきり
じやろ。もう少しね、一人ひとりが
自分たちの町は自分たちで守つて
いこうつちゅう強い意識が必要や
と思うとよね。

（真平）ところで、畳堤はどういう
形をしちよると？

（勇太）全国に三カ所畳堤があるつ
て言つたじやろ。それぞれ形が違
うとよ。延岡の畳堤は畳をはめこむ
がね、扇形になつちよるとよね。

（真平）ほう、扇形。
（勇太）和を感じるデザインになつ

ちよるわけね。畳がはいつちよらん
時は空間があるから、町の景観によ
うなじむようになつちよると。

（真平）デザインも工夫されちよる
つちやね。こんな複雑なもんを造れ
る、当時の技術もすげえね。

（勇太）ところで、あんたどんは五
ヶ瀬川に畳堤が設置されるきつち
けになった、毛なし浜の話は知つち
よる？

（真平）聞いたことないねえ。

（勇太）毛なし浜つちゅうのは、方
財町と長浜町の間にあつた砂州の
ことやつちやけど、これが大瀬川の
河口をふさいじよつたわけ。だから
台風やらが来たら、北川、祝子川、
五ヶ瀬川、大瀬川の水が一気に五ヶ
瀬川の河口に集中して洪水が起こ
るわけじやから、住民たちは、この
毛なし浜を切つて、水が流れる道
をつくろつと考えたわけ。それで、こ
の毛なし浜を切るまでの時間稼ぎ
に考え出されたのが畳堤やとよね。

（真平）なるほどね。でん、毛なし
浜を切る作業ってすげえ大変じゃ
つたつちやないと。

（勇太）そうやとよね。当時は重機
やらねえから全部手作業じやつた
わけ。また、流れがものすく速か
つたから、命綱をつけたながら、命が
けの作業やつたらしいね。

（真平）畳堤は今、どんぐらい残つ
ちよと。

（勇太）今、約半分の九百八十枚残
つちよるね。土木学会選奨土木遺産
に選定されたとよ。それから等身大
のミニチュメントを作ろうつちゅう
取り組みが始まつて、これに延岡工
業の土木科が関わらしてもらつち
よると。デザインを考えて提出した
り、佐藤君と僕が消防団の法被を着
て畳を持つて写真を撮つたり、実際
に工場で、のみとハンマーで石を削
つたりとか。畳の目の部分のデザイ
ンを考えて作業したりとかしたわ
け。それに、発泡スチロールや木材
でアクリル板の中にミニチュアの
畳堤を作つて、実際に水を入れて、
畳堤が町を守つちよる様子を再現
したとよ。その時の動画があるから
見てもらいます。

（動画）

（勇太）この赤いところが実際の堤
防の高さ。本来、ここを越えたら洪
水が起こるつちやけど。：はい、も
うここ辺まできたら、畳堤がなかつ
たらアウトやね。じゃけど、畳堤の
所から水が漏れちよらんじやろ。

（真平）うんうん。

（動画の中で）はい、拍手。

（動画終了）

（勇太）今回、僕たちの関わつたモ
ニュメントをね、延岡の新しい観光
スポットの一つに盛り込んでいこ
うつちゅう取り組みが始まつちよ
るとよね。それからこのコンセプト
は「百年先まで残るミニチュメント」
つちゅうと。

（真平）畳堤が、洪水から町を守る
つちゅう存在から、地域の暮らしに
溶け込んで、住民の防災意識の向上
に役立ったり、延岡の発展のきつち
けになるつちゅう役割に変わつて
いっちよるつちやね。